

平成 26 年 宮城県内の火災概況（速報値※）

※総務省消防庁へ報告された火災情報を集計、確定値は例年 8 月頃に公表されます。

（平成 26 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで）

1 出火件数

平成 26 年の総出火件数は 846 件で、前年（893 件）に比べ 47 件（5.26%）減少し、出火率（人口 1 万人当たりの出火件数）は 3.64 で、前年（3.84）に比べ 0.2 ポイント減少となりました。これは、県内で 1 日に約 2.32 件の割合で火災が発生していることになります。

月・四季別に見ると、4 月の出火件数が 167 件（全体比 19.7%）で最も多くなっています。また、冬から春の空気が乾燥し、暖房器具を使用する機会が多い時期に出火件数の約 56% が集中しています。

表 1 月別出火件数

区分	月別出火件数												総出火件数	出火率	1日当たり出火件数
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
平成26年	61	50	55	167	81	79	66	56	47	57	66	61	846	3.64	2.32
平成25年	67	60	211	88	85	56	55	43	49	41	68	70	893	3.84	2.45
増減件数	△ 6	△ 10	△ 156	79	△ 4	23	11	13	△ 2	16	△ 2	△ 9	△ 47	—	—

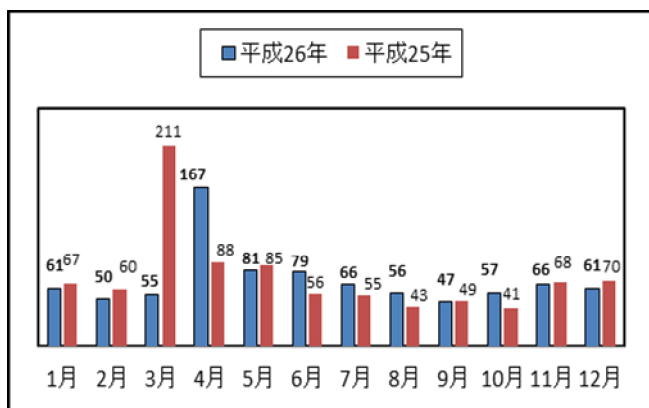
（※出火率：人口 1 万人当たりの出火件数）

表 2 四季別出火件数

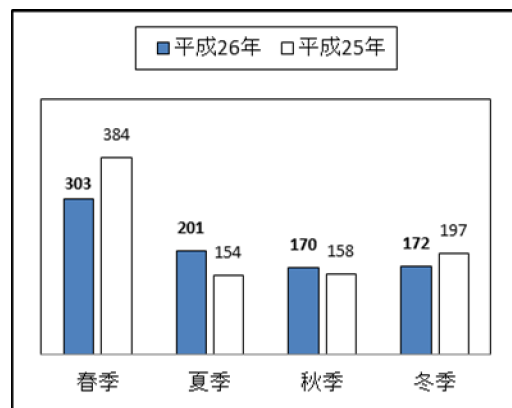
区分		四季別出火件数				合計
		春季	夏季	秋季	冬季	
平成26年	件数	303	201	170	172	846
	全体比（%）	36	24	20	20	100
平成25年	件数	384	154	158	197	893
	全体比（%）	43	17	18	22	100

春季3～5月，夏季6～8月，秋季9～11月，冬季12～2月

図－1 月別出火件数（平成 26 年・平成 25 年）



図－2 四季別出火件数



2 火災種別ごとの出火件数

建物火災が 449 件（53.1%）と最も多く、次に、車両火災 90 件（10.6%）、林野火災 44 件（5.2%）と続いています。

表 3 火災種別出火件数

区分		火災種別出火件数						合計
		建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	
平成26年	件数	449	44	90	1	0	262	846
	全体比（%）	53.1	5.2	10.6	0.1	0.0	31.0	100
平成25年	件数	455	58	93	3	0	284	893
	全体比（%）	51.0	6.5	10.4	0.3	0.0	31.8	100
増減件数		△ 6	△ 14	△ 3	△ 2	0	△ 22	-47

3 出火の原因

出火の原因の第 1 位は「放火」の 92 件、以下、「たばこ」の 84 件、「放火の疑い」の 73 件、「こんろ」の 55 件の順となっています。

表 4 出火原因別一覧表

順位	出火原因	件数	火災種別内訳					
			建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
1	放火	92	33	3	6	0	0	50
2	たばこ	84	44	4	7	0	0	29
2	放火の疑い	73	25	8	5	0	0	35
4	こんろ	55	55	0	0	0	0	0
5	電灯・電話等の配線	46	30	0	1	0	0	15
6	ストーブ	29	29	0	0	0	0	0
7	たき火	28	7	6	1	0	0	14
8	火入れ	27	3	4	0	0	0	20
9	火あそび	23	5	2	0	0	0	16
10	排気管	22	0	1	19	0	0	2

4 死傷者

火災による死者は 40 人（うち放火自死者 12 人）で、前年の 33 人（うち放火自死者 6 人）に比べ、7 人増加しました。また、負傷者は 119 人で、前年の 121 人に比べ 2 人減少しました。

5 火災損害額

火災による損害額は、1,590,876 千円で、前年の 2,076,316 千円に比べ、485,440 千円減少しました。